

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690500018		
法人名	医療法人 三幸会		
事業所名	ケアサポートセンター吉祥院		
所在地	京都市南区吉祥院里ノ内町71-1		
自己評価作成日	令和3年7月23日	評価結果市町村受理日	令和3年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jkyosoCd=2690500018-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jkyosoCd=2690500018-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク一期一会
所在地	京都市西京区西院久田町5番地
訪問調査日	令和3年8月7日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「その人らしく」を念頭に置き、同じ方向性のチームケアを行っている。本人の生活ペースを大切にし、自発的な生活が送れるよう努めている。その方のADLやニーズを理解し、職員間で共有を図り日々の介護に活かせるようにしている。昼食は利用者様の希望を取り入れたメニューを作成し、手作りの昼食を提供している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ケアサポートセンター吉祥院は、吉祥院天満宮の近くの住宅街に建つ小規模多機能型居宅介護事業所を併設している1ユニットのグループホームです。事業所理念「一人ひとりがその人らしく」のもと、職員は、利用者に関わった日々の会話を重視し、些細な会話からもその延長線上にある本人の思いに目を向けるよう意識しています。また、モニタリングやケアカンファレンスにおいてチーム全員で時間をかけて話し合い、利用者一人ひとりの意向や課題を共有し、本人の意向や希望に沿ったケアに努めています。新型コロナウイルス感染拡大防止の為、これまでの地域との交流は止まったままとなっていますが、地域住民の居場所・交流の場づくりや自治会との災害訓練に取り組みたい意向はあり、コロナ禍後に期待します。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく」の理念を共有すべく、個人の思いを汲み取れるようなケアに力をいれている。	事業所理念は、フロアに掲示され常に見えるようにしている。日々の介護の中で考えながら実践し、毎月のカンファレンスで一人ひとりについて話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内清掃への参加や、毎週日曜日に事業所内の駐車場で地域住民と一緒にラジオ体操を実施し、交流の場としていたが現在は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、中止している。	新型コロナウイルス感染拡大防止の為にこれまでの交流が止まったままとまっている。新たに地域住民の居場所作りや自治会の災害訓練に取り組みたい意向はあるが関係各所の同意が得られず進んでいない。利用者が職員と同行して事業所敷地内のゴミ出しの際には住民と挨拶は交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「みなサポ」へ管理者が参加・活動しているが新型コロナウイルス感染拡大の為、制約がある。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催の告知は事前に家族へ書面にて行っている。運営・事故・ヒヤリハット・苦情・行事等の報告も行い、会議で出た意見・アドバイスは共有し活かす努力をしている。現在は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、書面会議で実施している。	家族、地域包括支援センター、町内会会長、自治会会長、民生委員、区役所担当者等へ書面と声掛けで告知を行い2ヶ月に1回実施している。現在は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、事業所からの報告事項を事前に書面で報告し、それについて書面で意見をj得て議事録を作成し送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加・呼びかけを行っている。欠席の場合は会議録を提出している。	運営推進会議の案内は文書でと声掛けを行っている。運営推進会議の議事録は役所へ出向き手渡しを行い、顔の見える関係作りに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯上、夜間のみ行っている。毎月のケアカンファレンスにて身体拘束についての話し合いを実施し、日々の介護を振り返るようにしている。年間研修計画に基づく研修も実施している。	年間研修計画に基づいた研修を年1回行っている。毎月のケアカンファレンスでも話し合い、職員それぞれがどう思っているかを共有している。管理者は虐待や身体拘束についてわかるまで、またわかっても言い続けるように努め、職員の不安についても聞くように努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間事業所内研修計画に基づく研修を実施。スピーチロックに当たらないか日頃の業務内でも職員で注意し合えるような環境・雰囲気作りに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者様が1名おり、保佐人とは密に連絡を取っている。年間研修計画の中で制度について触れる機会もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約書内容の説明・同意を得て理解して頂いている。一部改訂があった場合は説明・同意の覚書きを交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の書面開催で家族様にご意見を伺う機会を設けているが一部からの意見にとどまっている。頂いた意見は職員間で共有し改善に向け取り組んでいる。	利用者には日々のかかわりの中で聞き取っている。家族からの意見は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、入館禁止となっていることから荷物を届けに来られた際に玄関で立ち話程度での聞き取りになっている。利用者とも2回の窓から顔を見て手を振る程度となっている。そのためリモート環境を整え、資料と申込書を送付しているが今のところ利用する家族はいない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケアカンファレンスと職員会議を各1回ずつ実施。職員からの意見が出やすいよう日々、話しやすい雰囲気作りを心掛けている。	毎月実施するカンファレンスと職員会議で意見を聞き取るようにしている。また管理者は日頃の関りの中から意見を言えるような環境作りに努めている。職員間で責任感の違いがあることからモニタリングしていくことを課題としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	代表者は職員個々の状況を何処まで把握されているのかは不明。法人全体の職員数も多い為、顔が見える機会は少なく、間接的な報告となる事が多い。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修は年間行事に基づき実施。外部研修に関して、積極的な参加は少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都地域密着型サービス事業所協議会や「みなサポ」のネットワークは有るが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、リモート会議等で活発な活動はできていない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の業務の中で傾聴している。各担当者を中心としたモニタリングを毎月行い、計画の作成に反映できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で聞き取りを行い、入居後も電話対応や来所時にヒアリングするよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ADLを把握しながら、医療との連携をとり、今必要な支援の見極めに努めている。訪問マッサージ、口腔衛生指導等を導入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常会話や、家事、レクリエーションを通し、共に過ごしている意識を持った関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り家族様にも支援の協力を依頼し、関係が断絶しないよう努めている。毎月、本人の写真入りのお便りを各担当者が作成し日常生活の様子を知らせている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様・友人・出身地等の話題に触れ会話に取り入れている。	入居期間も長く認知症の進行や新型コロナウイルス感染拡大防止などから馴染みの方の面会や美容室への同行など支援できていない状況。月1回の生け花や歌の時間を設けることで支援を行っている。2階の大きな窓を利用して、本人(2階)と家族(屋外)が距離を保ちながら面会できる工夫をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビング内での座席の配慮をしたり、コミュニケーションが取れるよう、職員が繋ぎ役として利用者様の間で繋ぎ役をする事もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望や必要性が有ればいつでも遠慮なく連絡いただくようにお伝えし、支援体制をとっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の担当者を決め、担当者を中心にモニタリング・ケアカンファレンスを実施している。	利用者との何気ない普段の会話をカンファレンスと捉え大切にして情報を集め、担当者を中心にモニタリング、ケアカンファレンスにおいてチーム全員で時間をかけて話し合い、利用者一人ひとりの意向を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談時に事前情報を得たり、入居後にも本人様・家族様との会話の中で把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の各記録、職員間の申し送り、医療との連携により情報共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリング・ケアカンファレンスの開催実施。必要時には臨時のカンファレンスも行い医療関係者とも連携を取っている。	主治医や地域の医療機関とも連携を図り、ケアプランに活かしている。介護計画は、いい意味で間違えながら作成することでそれぞれの意見の情報共有ができ、現状に即した介護計画に変更しながら作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送り、経過観察記録が主になっているが、職員間で声を掛け合い情報の把握・共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ柔軟に対応が取れるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店やスーパーで食材を仕入れている。徒歩圏に吉祥院天満宮・公園があり、散歩に最適な距離、場所となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様・家族様の希望や状態を考慮し、かかりつけ医(往診医)を決定し医療連携を取れるようにしている。	入居時に本人・家族の希望する主治医を決定し、往診に来てもらっている。受診時は職員が本人の状態を医師に伝えている。専門医や主治医と連携をとりながら適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を実施。1週間分の排泄表・バイタル表を元に状態報告を行っている。緊急時の相談・指示を仰ぎ、場合によってはかかりつけ医との直接連携もできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の介護サマリー、退院時の看護サマリー、主治医から入院先への医療情報提供書等やり取りを行っている。入院中の情報交換も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明・要望を伺っている。状態変化に応じて都度、説明・話し合いを行い意向を確認している。	入居時、契約書及び重要事項説明書に記載されている「重度化対応・終末期ケア対応指針」に基づき説明を行っている。また、状態の変化に応じて、本人・家族には、意向を確認するよう努めている。医療の視点で看護師から指示を受けたり相談するなど連携を図っている。また、職員の不安には都度ケアを行うようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内研修の年間計画に基づいた研修の実施を行っているが、定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中(水災害)、夜間(火災)想定での消防訓練を年2回実施している。現在は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、資料を元に研修の形で実施している。	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、消防訓練は実施していないが、これまで実施してきた資料を元に課題を振り返りながら、ハザードマップと照らし合わせるなど研修の形で実施している。地域との協力体制は書面での運営推進会議で話し合うにとどまっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の状況を把握し、本人様が誇りにしている事、触れて欲しくない点も考慮した声掛け、対応をしている。	利用者一人ひとりをよく知ることを基本として日々の会話を重視し、些細な会話からもその延長線上にある本人の思いに目を向けるよう職員が意識している。気付きは主に口頭で共有しているが、形で残すことが今後の課題となっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	発言以外にも表情や仕草からも汲み取れるよう観察を行い、出来る限り自己決定出来るよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを尊重しつつ、できる限り希望に添えるような支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族様に依頼し、季節にあった衣類等を準備してもらっている。訪問理美容の実施。更衣時の服選びをしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は職員が献立を立て、手作りしている。利用者様のリクエストを取り入れる事もある。職員と調理をしたり、食器洗い・テーブル拭き・お盆拭き・メニュー書きをしてもらっている。誕生日には地域の商店よりケーキを配達してもらっている。	昼食は職員が献立を考えて手づくりしていることから利用者の希望や家族から聞きとった好みのものを取り入れている。最近では鰻ちらしが好評であった。準備や調理などに携わってもらい一人ひとりの力を活かせるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者様により、摂取量や食事形態の工夫をしている。毎日、10時の水分補給時には好みの飲料を提供している。食事量・水分量も記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きを実施している。ひとりで出来ない利用者様には介助し行っている。週1回の歯科衛生士、月1回の歯科医師の往診も実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記入し各自の排泄パターンを把握することでトイレ誘導の間隔やパッドの選択をしている。下剤の調整をかかりつけ医へ相談している。	利用者の大半が自立している。誘導は排泄表から利用者ごとに排泄パターンを把握して声掛けを行うなど、トイレでの排泄を支援している。排便のタイミングについてはサインがうまくキャッチできておらず課題としている。失禁時等の対応は責めることの無いよう言葉使いや羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、食物や水分を促す事で自然排便を促している。必要に応じて主治医と連携をとり、下剤の調整を行っている。歩行運動・ラジオ体操を促している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否が有る場合は無理強いせず、順番や対応職員を変更して週2回は入浴していただけのよう努めている。体調を重視し入浴時間や曜日は設定していない。	基本週2回の入浴だが、一人ひとりの希望や体調を重視し、時間や曜日を固定していない。同性介助を心掛けているが、希望時間や人員の関係でできない場合は説明を尽くしている。入浴拒否があればその原因を考え話し合っって対処し、無理強いすることはない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自の状況に応じて日中の臥床時間を設けたり、入床時間のタイミングも本人様のペースを大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を各個人のファイルに綴じ確認出来るようにしている。変更が有れば職員間で情報共有している。症状に変化が有れば主治医へ相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昼食の調理の下ごしらえや食前のテーブル拭き、食後のお盆拭き、居室内の掃除機掛け等ADLに合わせた役割を持って頂いている。キーボード演奏や塗り絵等、個人の希望のレクリエーションの提供。好みのメニューを昼食に反映している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、遠出は出来ていないが、マスク着用し近隣の公園や吉祥院病院への散歩を行ける時には行っている。事業所敷地内にあるゴミ出しに職員と同行し外の風に当たる事もして頂いている。	新型コロナウイルス感染拡大防止の為だけでなく、雨の日や寒い日もあることから、それなりのリスク管理をして、近隣にある吉祥院天満宮へ散歩することが日常の外出となっている。職員と同行してゴミ出しをするなど外気を感じるための工夫に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の希望や必要に応じて立替金での購入となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望が有ればいつでも利用して頂けるよう職員が取り次ぐ形を取っている。手紙のやり取りは殆どないが、利用者が家族に年賀状を出す機会を持つよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温計を確認し快適な室温になるよう設定変更している。窓を開放しての換気や、空気清浄機の使用もしている。場所や時間に応じて照明も明るさを変更し、壁には季節感のあるディスプレイをしている。	共用部分は体感温度の個人差に配慮して、温度設定を変更するなど快適な室温になるよう努めている。感染予防として換気に努め、空気清浄機を設置している。壁には利用者と職員で作った季節の飾り付けがされている。日中は明るく夕方から夕食後、夜へと照明をおとしていくなど居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席は自席の位置を決めているが、リビング内にソファを置き自由に使用できるようにしている。また、居室への出入りも自由にして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用されていた家具や、入居後も本人様の好みの縫いぐるみや写真等、家族様よりご持参頂いている。	居室は畳敷きで馴染みの家具や仏壇、好みのものを持ち込まれ、居心地よく過ごせるような空間となっている。コロナ禍で面会できない本人の為、面会時に家族写真を持ってこられるなど今までの生活の継続を大切にしたい空間作りに家族や職員が共に工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の出入りには表札を掛け確認出来るようにしている。フロア内の壁にカレンダーを掛け一緒に日にちの確認を出来るようにしている。		